



出場選手代表として伊藤主将選手宣誓



第二十九回全国
会参加章 (吉田

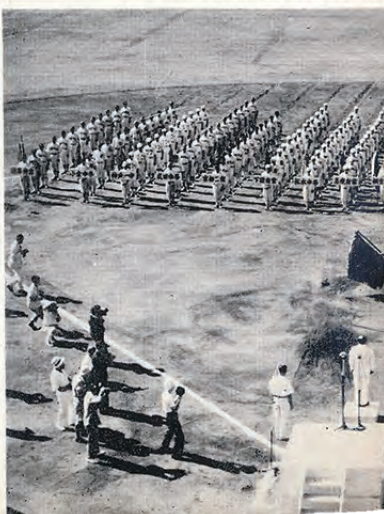
中等学校優勝大
会勲章)

← 全国中等学校優勝大
会優勝レブリカ



← 大優勝旗を掲げて入場
伊藤主将 小西 角家、阪田、寺沢、島谷ほか

↓ 伊藤主将大優勝
第二十九回全国中等学校優勝野球

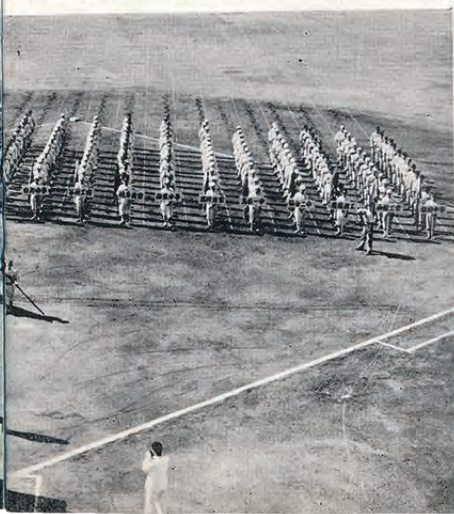


旗返還 (甲子園)
大会入場式 (昭二二・八・一三)



(上) 東西大学・社会人混合東西対抗試合に平古場(後列右から二人目)異例の出場

(下) 全国大会大阪予選連続優勝(藤井寺)
(前列左) 阪田弟、七宝、市原、小西、三好、副島 (後列) 寺
沢、三村、川口、北村、角家、島谷、颯、阪田、伊藤



平古場主将外ナインの大半(六選手)を送
つて戦力低下は免れないながらも、前年の栄
誉を保持しようとする(これを随力の優勝と
評する向きがある)伊藤主将以下、必死の健
斗はよくここに連続大阪代表権獲得の美果を
おさめた。
尤も甲子園では、阪田投手、二回に俄然調
子悪しく、四球禍で一挙四点献上の致命失を
招き4-2、仙台二中に敗退した。



ムリンズ少将より記念球を受く(甲子園)
第二十回選抜大会入場式(昭二三・四・一)



→ 堀一壘手ジャンプ好捕する
(下関商戦) 昭二三・四・二



← 本校七宝、二盗ならず
(下関商戦)

選抜大会再開はこの年(昭和二十三
年)から。四月には学制改革が実施さ
れたので、なつかしい中等学校は新し
い高等学校と改称した。

緒戦に下関商高と対し、下商二回に
亘る本塁突入を、いづれも七宝の美技

に依って退け、無得点のまま補回に入
り、折柄の春雨煙る中の白熱試合を展
開したが、十四回一挙四点を奪われて
悲涙をのんだ。

← 下関商得点機をつくる(同上、十四回)



→ 記念旗を春風になびかせて(第二十回選抜大会
入場式)

名知、阪田主将、(三人揃いて)三村、七宝、
副島、堀、川口、小西

← 昭和二十四年度選手(校庭)
(前列左) 竹内、阪田、山咲マネジャ
ー、川崎部長、咲田教諭、中島
(後列) 今村、阪田弟、徳山、市原、
副島、佐々木、堀、三村、三好、七宝





→ 昭和二十六年年度部員(校庭)
 (前列左)安田、金光、佐古、堤下、西山、播田、天野、中村、小寺、
 福家、二宮、堀(中列)堀める、部員、竹内、三島、川崎、部長、色川、
 口入江(後列)市原、中島、阪田、副島、徳山、金谷、新見、松岡、
 奥田、上田、中島忠、篠田、滝井、藤原、小西、荒木、沼田、佐々木

昭和二十四年は野球部創立二十五年に当り、記念のため『浪商野球部二十五年史』を編集発行した。この出版記念会には毎日新聞社から湯浅禎夫氏が来席の上、親しく祝意を述べられた。氏の格別の好意は感銘にたえぬものがある。昨年他界されたが、痛惜の至りである。
 昭和二十四年から同二十七年の四年間は春夏両大会に遠ざかった。
 昭和二十六年度記念撮影にはバックに終戦直後からの馬小舎同然の平家建校舎が見え、まだ荒涼のままの校庭ではエビガニがとれた。



→ 野球部二十五年史刊行記念会に於ける湯浅禎夫氏の感想談(道頓堀橋北詰ケリル) (昭二四・一一)
 ← 中下主将、本田会長より準優勝メダルを受く
 第二十五回選抜大会閉会式(四・六)

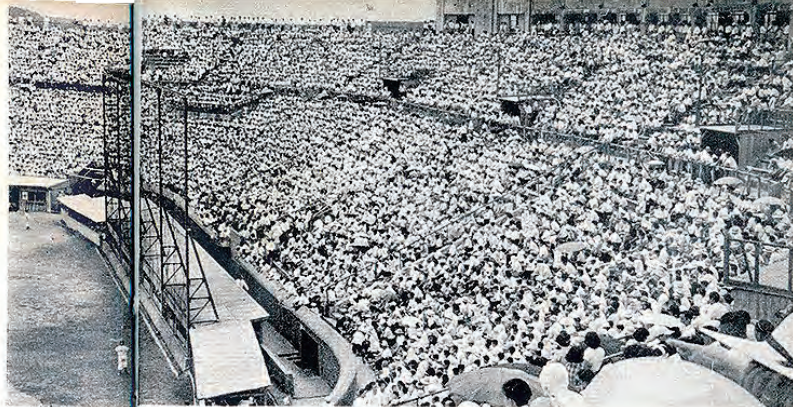


→ 緒戦先づ快調(金沢桜丘高)
 (右より)中下主将、安田、野口、片岡、藤井、広沢、堤下、中辻、藤井、橋本、長野、西崎、天野 (昭二八・四・二)

昭和二十八年選抜大会の優勝戦は本校OB広瀬君監督の淵本高と対し、先輩中島監督の本校は4-0で準優勝校となった。好調を続けた中下投手も優勝戦だけが不調であったのは惜しまれた。



(上) 準々決勝・済々魯戦
 延長十三回、中下の二旬矢で中辻生還、決勝点をあげる(捕手京・球審大槻氏) (四・四)
 (下) 戦は終りぬ
 淵本高に後続して、準優勝旗を先頭にナインの場内一周 (四・四)



第三十五回
全国選手権大会参加章
(吉田毅示作)

↑ 応援団旗の下に (甲子園)

昭二八・八・二五

↑ 立錐の余地もない大観衆 (藤井寺球場)
大阪大会優勝戦 (昭二八・八・三)



一回戦東筑高 (一) 一回, 中下, 中辻とのスクイズ成功, 中辻ホームイン



→ 同上 (二)
六回、中下左中間二塁打し、一塁三進にたおる。



→ 第七回の大坂優勝就る (藤井寺)
(後列) 中下、竹内監督、中島部長、堤下、藤田、藤井、谷本、朝日、片岡、安田 (前列) 水谷マネ、チャー、西崎、中辻 (昭二八)



→ 第三十六回全国選手権大会入場式
中下主将、(左列) 朝日、坂下、堤下、中辻 (中央) 谷本、野口、安田 (右列) 片岡 (昭二八・八)



↑ ハワイ選抜高校チームを迎える
大阪選抜高校チーム（藤井寺）
（後列左）伊達監督、一人おいて片岡、三人おいて中下。
（中列左）中辻、四人おいて西崎（前列右）梶下
（昭二八・八・四）

↓ 二回戦、飯田長姫（→）（昭二九・四・三）
七回、飯田一死満塁、小林のバント失敗に杉村三本間で映殺さる（捕手片岡、本塁前谷本、背5梶下、背6竹内、背7大江、球審山村・壘審藤江阿氏）



※ 中下・片岡バッテリ一の昭和二十八年度チームは春夏両全国大会に出場し、選抜では優勝を逸したがその実力は認められ、大阪予選直後に行われたハワイ高校チーム試合には大阪高校チームから本校は四選手選抜された。

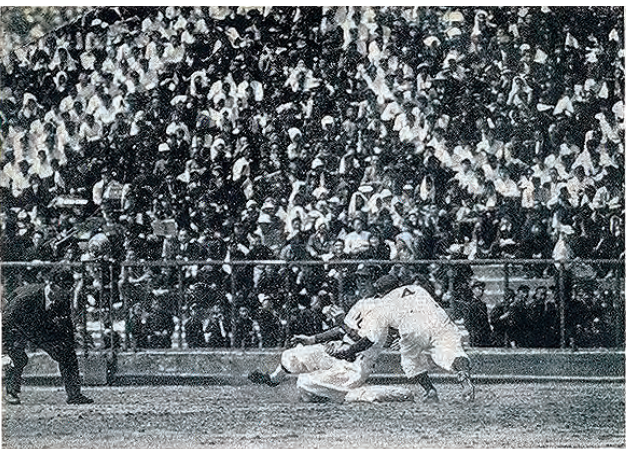
※ 昭和二十九年選抜大会は初日に宿敵中京商と対し、藤田投打に活躍してこれを3-2で退けたが、次いで飯田長姫（同年優勝校）光沢投手の軟投に手をやき、1-0で敗れた。



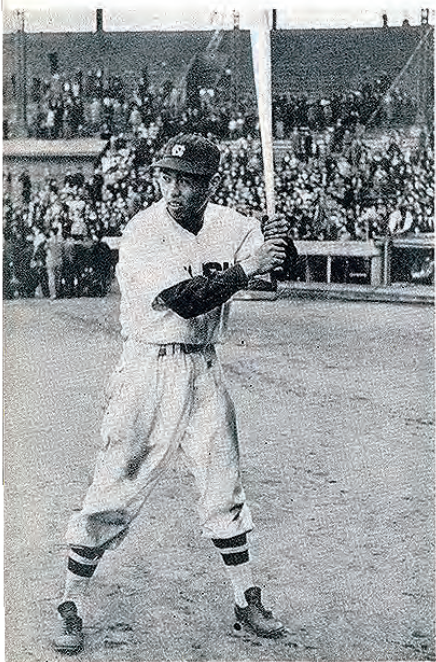
→ ハワイ選抜チームを横浜埠頭に迎う。（昭二九・八・二）
中央左、ハワイ選手、中央島岡明大監督、栗原東京都連盟理事長、杉本府連盟理事



→ 晴れの試合三分前 第二十六回選抜大会（中京商戦）
（左より）片岡主将、藤本、朝日、谷本、広島、東谷、大江、松山、藤田、山本、勝浦、梶下、天野、竹内
（昭二九・四・二）



↑ 飯田長姫戦（←）
三回、二死松山の二盗ならず（野手小林、壘審塚本氏）
後方Nの白文字は本校応援団席



↑ 第二十七回選抜大会の立役者坂崎一彦選手
打撃賞、生還打者賞、本塁打賞一手に獲得